

看護ゼミにゅーす 第4号

2012年10月19日 看護ゼミ報告 (発行遅れました!)



「退院支援・調整とは」

地域医療連携室 五十嵐師長

都道府県別高齢者の増加状況から始まり、どのような患者に退院支援が必要か、退院調整では「患者さんがどう生きたいか」を軸に持つことが大切と話してくれました。退院支援は入院時から、退院が決まってからでは遅いと学びました。

「レクリエーションの3年間の取り組み」

6東 矢尾板さん

療養病棟ならではのレクの取り組みについて介護福祉士さんが報告。夏祭りでは6西病棟と協力して、かき氷、マジックショーなどを行い、患者さんやご家族の素敵な笑顔が見られたことが紹介されました。経口摂取は無理とされていた患者さんが、かき氷をきっかけに経口摂取も可となり、自宅退院できた報告は感動的でした。



「A氏の思いに寄り添って

～多様な家族のあり方～

透析室 萩原さん

娘さんとの二人暮らしに限界を感じ、施設に入居したいという患者さんの思いを聞き、家族や行政にアプローチ。家族一緒に暮らすだけが家族のあり方ではないことがわかった事例でした。病気だけではなく、生活環境や精神面でも関わりを持って、透析を続けていけるよう援助する透析室のチームの力を感しました。



参加者は約60名 医事課の市川さんも参加、発言していただきました。今回も濃い学びの時間を共有しました。

☆ニュースの発行が遅れました。ご協力いただきました皆さん、申し訳ありませんでした。